

ふじのくにから 世界へ!



静岡県には世界に誇りうる自然、文化、産業などの資産が豊富にある。

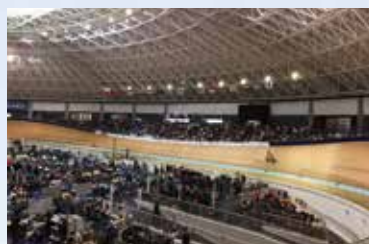
その魅力あふれる資産を最大限に活かして富国有徳の理想郷“ふじのくに”を目指す静岡県の「今」を紹介する。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技(トラック)会場が伊豆市の「伊豆ベロドローム」に決まった。これを受けて静岡県は自転車を力点にした県内の魅力発進を加速させている。

「伊豆ベロドローム」は伊豆市の日本サイクルスポーツセンター内にあるドーム型屋内競技場だ。国内で唯一、五輪クラスの国際大会規格に対応する全長250メートルの板張りコースを備え、今年1月にはアジアの頂点を決する「アジア自転車競技選手権大会」も行われた。同大会は5日間にわたって世界トップクラスの選手が熱戦を繰り広げ、満席の会場は大いに沸いた。本県はこれを弾みに、サイクリングの普及、愛好者人口の拡大、市町や競技団体と連携した国際大会・合宿の誘致、インフラ等の環境整備、富士山静岡空港を活用したサイクリストの呼び込みなどを

行い、本県を「サイクルスポーツの聖地」へ導きながら、オリンピックの成功へつなげる方針だ。

多様な自然に恵まれた静岡県はサイクリングに適している。富士山、温泉、食文化などの観光資源が豊富な上に、首都圏から近く、陸海空の交通アクセスも充実している。それらの強みをサイクリング資源として掘り起こし、国内外への情報発信を推進すれば、静岡県は世界中のサイクリストの聖地になり得る。また、自転車先進国イタリアやサイクリング人口の多い台湾との交流が本格化



1月に開催された「2016年アジア自転車競技選手権大会」では5日間で約9,000人が来場。伊豆ベロドローム開設以来最高の観客数だった。

すれば、本県のサイクルスポーツは一段と盛り上がりを見せるだろう。

自然環境に優しく、健康を促進する自転車には人々の暮らしを変える力がある。そんな自転車に対する関心を高め、全県をあげて自転車文化の醸成に努めれば、2020年東京オリンピック・パラリンピックを成功へ導くだけでなく、大会後も「サイクルスポーツの聖地」として世界中から認知される存在になるだろう。国内唯一の規格を誇る「伊豆ベロドローム」はその基点であるとともにシンボルでもある。



日本初の木製走路の室内自転車競技場「伊豆ベロドローム」。国際規格の競技場として国内選手の強化拠点としても使用されてきた。

オリンピックを契機に

静岡県をサイクルスポーツの聖地へ

